

科目名	母性看護 I (母性看護概論)				DP1、DP2、 DP3、DP4	看護高等課程
学年	1年	分野	専門 母子看護	時間数	9時間	担当 教員 外部講師
科目 概要	母性の特徴を理解して、母子保健・医療・福祉の動向と対策を知り、一生を通じて健康で平和な家庭生活を営むことができるために必要な看護を学ぶ。					
到達 目標	1. 母性看護の特徴と役割を理解できる。 2. 母子保健・医療・福祉の動向と対策を学び、母性に関する諸問題について考える。					
回数	単元項目	授業内容			形態	担当教員
1~5	母性看護の意義と役割	母子看護を学ぶにあたって（リプロダクティブ・ヘルス）、母子の健康に影響する出生前の因子（遺伝子異常、染色体異常、胎芽病、胎児病、胎児の成長）、出生時の因子（乳児死亡原因）、出生後の因子（母子相互作用）、健康な母性の発達に影響する因子			講義	外部講師
	母性の看護の対象と看護の特徴	母性看護を学ぶ目的、母性看護の特徴（ヘルスプロモーション、救急看護、患者の心理の理解、精神的な援助、秘密保持、生命倫理と看護倫理）			講義	
	周産期の母児の保健管理と看護	母性の特徴（身体的特徴、年代による変化、性周期の存在、妊娠・分娩、授乳機能の存在、解剖的特徴、妊娠・分娩に伴う合併症、女性性器・乳房の悪性腫瘍、健康面での男女差、女性における受胎調整、女性好発疾患、精神的特徴、社会的特徴			講義	
	母子保健の現状と動向	母子保健の発達、母子保健の現状（主な母子保健統計）、母子保健対策の現状			講義	
	母性各期の特徴と看護	思春期（初経・貧血・性感染症）、成熟期（家族計画・受胎調整・不妊・人工妊娠中絶）、更年期（閉経・更年期障害）、老年期			講義	
	試験				試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。					
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。					
教科書	新看護学 14 母子看護 医学書院 必要時、資料等は配布する。					
履修上の 注意点						